感想

蒼みかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
感想

【Ｎコード】
Ｎ４２９５Ｐ

【作者名】
蒼みかん

【あらすじ】
独り言の微妙な続き。胸にぽっかりと空いた穴がどうなったか見ていって下さい。中二病じゃなくて高二病？ただひたすら一人語りの一人言。暇なお人好しはどうぞご覧下さいませ。

むかし、結構遠くに感じるむかぁしの記録を読んだ。
嗚呼、こんなこと書いてたっけ、なんて苦笑。懐かしいなぁ。

読み終わって、あれ、これっていつのだっけ？疑問に頭を捻らせてみたり。
へぇ、3年前かぁ……。あん？高1？？なんでこんなん書いちゃってんの。アホ？て自分を罵倒。

だって、高校からの友達は友達は、友達で、友達だったし、友達を通り越して友達の…。うん、書いてて途中で訳分かんなくなった。
アウチ。
まぁ、あれかな。中学のを引き摺ってたのかな。うん、友達はいたけど。親友だよねって言ってた子はいたけど。
でもあれは友達って言えなくない？とか思っちゃう友達だったから。
あ～、ここで中学の話なんかしても意味ないし、別のトコで話そう。

そうそう、3年前の1日だけの日記を今見ています。
懐かしいなぁ、なんて郷愁に耽ってしまいそうです。まぁしませんけど。
随分と文章の書き方も変わりました。なんとなく面白みもない心に届かないツマラナイ文を書いているように思います。まぁ構いやしませんけど。

あれから3年、私に『友達』が出来ました。
3人、友達　が出来ました。

一から始めたので最初は不安だらけでした。一寸先は闇の言葉通りのことを感じていました。

でも、友達ができました。

まだ会ったばかりの頃、別の人と話しているのを見て「私ハアノ中ニ入レナイ」と思って、私の中にいてくれる人を渇望していました。

本当の友達ができました。

友達の意味を知りました。友達を実感できました。
尊敬できる人ができました。
尊重したいと思える人ができました。
人間としてできている人と知り合えました。
もっているスペックもクオリティも何もかもが上だと認められる人ができました。

それはたったの3人だけど、中には何人も詰まっているような3人ですが。

私だけの夢の国は持っていません。絵空事は今も空に浮いたままです。

私は自然体でいました、笑顔なんてもう作っていません。作らなくても笑顔でいたからです。

笑わせる言葉もかけてはいません。他の人に言わせるとくだらない些細なことで笑い合っていたからです。

仮面を被っていません。偽らなくても良かったからです。

ああ、でも、この心のうちは言えてませんけど。
退かれたくないんです、引かれたくないんです。
遠くになんか行って欲しくないんです。
近くにいて欲しいんです。できれば隣にいて欲しいんです。
嫌われたくはないんです。好きでいて欲しいんです。できれば愛されたいんです。
嫌悪されたくないんです。嫌われていなければ、それで良いのです。

私の心には、依存されたい、もっと私を求めて欲しい、といてコトバたちが巡っています。頭の中の脳から発信されて、今動かしている手を通って、足まで墜ちて心臓へ廻っています。

胸をキュッとさせる、少しの息苦しさを感じさせるコトバは、今も尚　巡り巡って頭へ「ただいま」と言っています。「おかえり」の言葉は返ってなんか来ませんけど。

依存されたい、は　在りますが必要とされたい、はありません。
だって、私を必要としてくれる人たちに出会えました。

もっと私を求めて欲しい、は前に比べるとずっと形をもって存在しています。
だんだん緻密になっていっているように思います。

前は漠然とした、辺り一面に立ち込める霧のような黒い靄が何層にも重なってできた闇のような何かが、今は確固とした、形をとって一つだけ存在しています。大きさは現在も増大中。

メーデーメーデー。
ねぇ、私を殺さないで下さい。誰かなんてもういないんです。あなたたちじゃないとダメなんです。他の人では意味がないんです。

私の思いは水の中でもがいているときのような動きづらさと息苦しさとを与えてしまっているのでしょうか。
ああ、そのうち奥底まで引きずり込んだ水圧で潰れてしまうのでしょうか。

私のことを誰よりも理解してくれる人。に、近い人でした。
前に進めるよう心をくだいてくれる人。に、近い人でした。
無邪気に甘えてくれる人。に、近い人でした。
私をドロドロに甘やかしてくれて、包み込んでくれる人。は、いませんけど。
でもいいんです。私がドロドロに甘やかしますから。

ああ、逢いたい（巡りあいたい）なぁ。
会いたい（顔をみたい）なぁ。
遇いたい（偶然にあいたい）なぁ。
合いたい（共感して一致したい）なぁ。

愛しています。
愛してくれていますか？

まだ生きて痛い、生きていたいよ……。

今も心は涙を流しています。意味は違うけれど。

平成二十一年　十月十六日

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4295p/

感想

2010年12月11日13時53分発行